

# 「心の会の碑」建立にご賛同を

(仮称)

「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」につきましては、ご存じ頂いているかと思っております。

安倍政権は、憲法を改悪して、国民を「戦争への道」に引きずり込もうとしています。現に沖縄辺野古では問答無用で米軍基地建設工事を強行しています。

安倍政権が暴走を続ける今、太平洋戦争開戦当日、軍機保護法違反で検挙されたこの事件の真相を、さらに広く多くの方々に知って欲しいと思っています。

私たちは、2013 年来の秘密保護法反対運動のなかで、冤罪事件の真相を訴え続けてきました。特定秘密保護法の原型である旧・軍機保護法の下で引き起こされたスパイ冤罪事件の生々しい実態は、現・特定秘密保護法の危険性を実証しているといっているでしょう。

このような国家冤罪は二度と引き起こさせてはなりません。このため、弾圧に屈しなかった北大生・宮澤弘幸らの顕彰も進めておりますが、今、2人の元北大総長ら6人が呼びかけ人となって、別紙のように、「心の会の碑」(仮称)の建立運動を進めております。「心の会」は戦前の北大構内で、国境や身分を超えた教師と学生たちが人間的な交流をかさね、宮澤らを育てた土壌であり、そのゆかりの地がいまも北大構内に遺されています。いまは、その敷地提供を北大当局は拒んでいます。この地が建立にふさわしいと、わたしたちは考えています。



「ソシエテ・デュ・クール(心の会)」発足記念写真。ドロ沼日中戦争下、太平洋戦争前夜であっても、外国人教員と北大生たちは国際色豊かに交流を続けた  
=1939(昭和14)年6月8日、太黒マティルド夫人宅

「心の会の碑」(仮称)建立運動は、北海道大学をして真に「真理に倚って立つ自主独立の自修心」を育む学問の府、教育の府たらしめると同時に、暴走する安倍政権の憲法改悪、「戦争への道」に反対する意思を明確に表明するための運動の一環でもあります。

みなさまのご賛同を心から呼びかけます。ご賛同いただける方は、ご住所、ご氏名、電話・メールアドレスとともに「ご意見」を記入して、FAX・ハガキ・メールでお送りください。

◇ハガキ=101-0051 千代田区神田神保町3-2 サンライトビル7階 千代田区労協気付

「北大生・宮澤弘幸『スパイ冤罪事件』の真相を広める会」事務局

◇FAX=03-3264-2906

◇メール=[chyda-kr@f8.dion.ne.jp](mailto:chyda-kr@f8.dion.ne.jp)

なお、「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」につきましては、当会編『引き裂かれた青春—戦争と国家秘密』(花伝社刊)を公刊し、広くご購入いただきたく、お願いしております。事務局宛お申込みの場合は、送料とも2300円ですので、この機会に是非お申込み頂きたく、合わせてお願いいたします。

北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会

「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」のような出来事を二度と起こさせないために—

## 「心の会の碑」(仮称) 建立にご協力を

呼びかけ人

丹保 憲仁 (北海道大学元総長)

中村 睦男 (北海道大学元総長)

後宮 敬爾 (札幌北光教会牧師)

加藤 多一 (童話作家)

山本 玉樹 (真相を広める会代表・北大クラーク講座主宰)

山野井孝有 (真相を広める会代表)

1941年12月8日、アジア・太平洋戦争開戦の日、北海道大学工学部2年生宮澤弘幸さんは、アメリカ人教師レーン先生御夫妻と共に軍機保護法違反すなわちスパイ容疑で検挙され、その後3人とも懲役15年などの重い刑を科せられました。根室の海軍飛行場のことなどは誰もが知っている事実であるにもかかわらず、「軍機」を「探知」し「漏泄」したからというのです。いわゆる「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」であり、他に北大助手ら3名の者も前後して検挙され有罪とされました。

レーン先生御夫妻は収監後1943年に日米交換船で送還、戦後1951年北大に復帰して多くの学生に平和への願いを伝え、札幌の地で亡くなりました。北大生のみならず他大学の学生や多くの市民たちが、レーン先生御夫妻の温かい人柄と無私の施しに大きな感銘を受けたのでした。一方宮澤さんは、恐らくは拷問と脅迫の中、北大生としての誇りを胸にスパイの容疑を否認しつづけましたが、やむなく退学に追い込まれ学問研究の途を閉ざされてしまいました。敗戦後1945年10月に釈放されたものの、過酷な拘禁がもとで衰弱、病身となり、1947年に27歳の若さで亡くなりました。アメリカ在住の実妹秋間美江子さんは兄の名誉回復を強く望んでいます。

戦中戦後に、北大で教鞭をとったレーン先生、ヘッカー先生、太黒マチルド先生、マライーニ先生ら外国人教師を中心に、多くの学生たちが彼らのもとに集りました。その集りは「ソシエテ・デュ・クル (心の会)」とよばれました。彼等は国籍や立場の違いを超え、深い信頼と友情に包まれ、何よりも学問の真理と平和を大切にしました。日米開戦に踏み切った政府は、自由な精神と人間性にあふれたこの集まりを恐れたのです。

ここには、札幌農学校以来の教育思想である真理に倚って立つ自主独立の自修心が息づいていました。この精神こそ、クラーク先生から内村鑑三・新渡戸稲造・宮部金吾らへ、そして多くの卒業生へと誇り高く受け継がれてきたものであり、人間性を否定する戦争を根底において拒否する思想でした。

私たちは北大構内の外国人教師官舎があった林の一隅に「心の会の碑」(仮称)を建て、あわせて「スパイ冤罪事件」の犠牲者の名誉を回復し、レーン先生をはじめとする外国人教師と宮澤さんらの非戦・平和の営みを顕彰したいと考えています。それこそが、再びあの痛ましい事件を引き起こさない誓いのシンボルとなるものだと考えます。

今私たちは「心の会の碑」(仮称) 建立期成会の結成を準備しています。北大当局との交渉を進め碑建立の条件が整った時点で期成会を発足させ、同窓会など関係者はもちろん、平和を願う多くの方々に、広く碑建立へのご理解とご協力をお願いする予定です。皆様のご賛同を心よりお願い申し上げます。

2014年5月6日

連絡先 北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会